



# 図書館だより



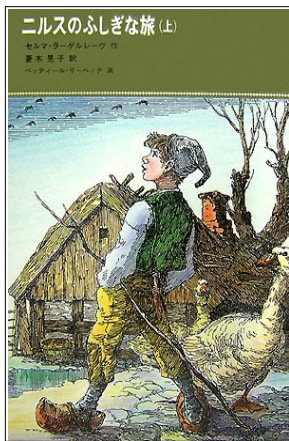
今年の秋は短く、山々の紅葉も駆け足で日本列島を染め上げていきそうですね。そんな中、秋でも冬でも変わらず楽しめる「読書」はお薦めです。今号も先生方からの推薦図書をご紹介します。学生時代に読まれた懐かしい思い出のある本、今とっても売れている本などいい本目白押し！あなたも是非一読してみてください！

今回の推薦は  
第2学年の  
先生方です！

山本 宗明

『ニルスのふしぎな旅』

セルマ・ラーゲレーヴ著 岩波書店



初めて布団に潜り込んで読んだ本。  
生まれて初めて読破した本。

ニルスや動物達から離れることが余りにも切なくて、もう一度、もう一度と繰り返し何度も読んだ初めての本。生まれて初めて夜更かしをしたのもこの本のお陰だ。

小学校低学年向けながら、物語世界に引き込んで離さない力があつた。もう一度読んでみたい本だ。



高槌 倫明

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」をよんだら』

岩崎 夏海著 ダイヤモンド社

公立高校野球部のマネージャーみなみは、ふとしたことでドラッカーの経営書「マネジメント」に出会います。はじめは難しさにとまどうのですが、野球部を強くするのにドラッカーが役立つことに気がきます。

経営書と野球、あまり関係のなさそうなものが実は大いに関係があり、野球だけではなく学校生活でも参考になることが……。



石川 圭

『数学ガール』 結城 浩著

ソフトバンククリエイティブ



1, 1, 2, 3, その次は？才媛ミルカさん、元気少女テトラちゃん、それに「僕」の3人の高校生が学校の数学とはひとあじ違う数学に挑戦します。数学的内容はいたって真面目、きわめて真剣です。目指せ「理系にとって最強の萌え」だそうです。

宮崎 勝美

『国盗り物語』

司馬 遼太郎著 新潮社



戦国の武将『齋藤道三』と『織田信長』を違う視線から覗き見た気持ちになります。

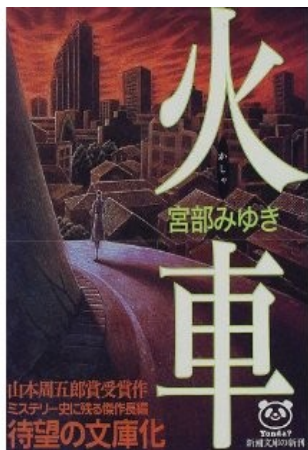
今の時代で言うと、「会社乗っ取り」かな。

寺内 卓也

『火車』 宮部 みゆき著 新潮社



社会問題としての消費者金融のありかたをテーマとしており、サラリーマン金融やカード破産などの借財に翻弄される女の生き様を、彼女のことを追い求める刑事の視点から描く。東野圭吾好きの方ならば、主要人物が周囲の言動によってその人柄が浮かび上がってくることに、違和感を感じることはないだろう。



杉山 和則

『日本建築様式史【カラー版】』

太田 博太郎監 美術出版社

建築・美術が好きな人にはもちろん、古典や日本史を学ぶ人のお供にも心強い一冊。本書を通して日本の「たてものヒストリー」を覗くなら、またひとつ新たな世界が立ち現れること請け合い。観光で巡る寺社や城郭、毎日眺める街の民家や公共施設の建物たちが、あなたに静かに語り始めるだろう。

つくづく形は思想である。



裏面にも紹介されていますのでどうぞ



# ありますか？好きだと言える一冊が



関口 久代

『もし高校野球の女子マネージャーが  
ドラッカーの「マネジメント」を読んだら』  
岩崎 夏海著 ダイアモンド社

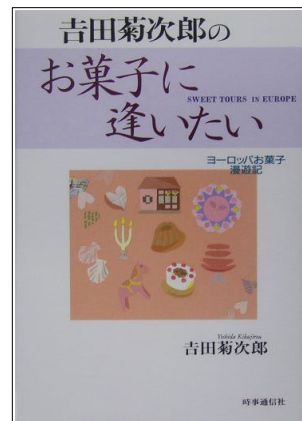


私は妹に薦められて読みました。進学校の野球部の女子マネージャーが野球部を甲子園出場に導くためにドラッカーのマネジメントを読みながらそれを参考に部の改革を進めていきます。優秀すぎるマネージャーにびっくりです。

小澤 光志

『吉田菊次郎の「お菓자에逢いたい」』  
吉田 菊次郎著 時事通信社

“パティスィエ・吉田”のお菓子で巡る世界の旅”！第一弾。至高の味を求めて、ロシア、北欧、中欧、そして南欧にまで及ぶスイートツアー。名店を探訪し、匠と出会い、至福の時を過ごす。ユーモアたっぷり、旅のエピソードも満載されている本です。



滑川 良子

『もっと知りたいフェルメール』  
小林 頼子著 東京美術



読書の秋ですが、芸術の秋でもありますよね。美術館や特別展に鑑賞に行きたくても気に入った作品を何時も見られるわけではないですね。そんな時、この本を持っていると、何時でも作品を見る事ができます。作者や作品について深く知る事ができます。現存の全作品をカラーで解説しており、絵画の世界に入る入門書としても面白いので読んで(観て)ください。

池谷 優

『夢を見て夢を追いかけて夢を食う』  
国分 秀男著 日本文化社

高校バレー界において全国制覇10回を数える古川学園高校(宮城)の元監督である国分先生に本です。

「夢を食う」は、忍耐・勤勉・知恵・工夫である。何事もあきらめず取り組んでいけば「夢を食える」と。夢を追う人々ぜひ一読を。

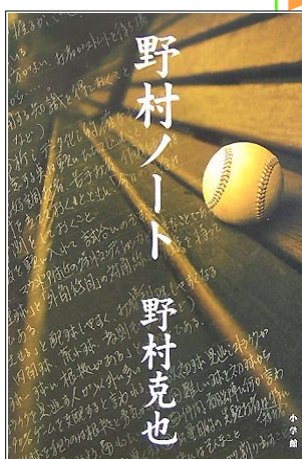


木野内 聡

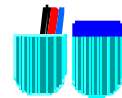
『野村ノート』 野村 克也著 小学館

野球ファンとして一度は読んでみたいと思い買ってしまった。野球についてというよりは人間についての内容がほとんどだと読んでいて思いました。今現代の人が忘れていているものをずばり言ってくれる、まるで目の前に監督がいるような感じを受けます。

野球好き以外にも読んでほしい一冊です。



第一職員室前の掲示板と保健室の前の廊下の壁面には、図書委員がお薦めする本の紹介文章が掲示されています。あわせてごらん下さい。



楨野 忠秋

『美を求める心(小林秀雄全集)』 小林 秀雄著 新潮社



小林秀雄は難解な文章を書くことで有名です。「しかし難しい問題は易しく語れない、やさしいことを難しく語るなら、それは私の責任だが」、と彼は言っています。何を読んでも難解そうに見える彼の作品のなかで、例えば「美を求める心」は涙がでる、心をゆさぶられる文章です。そこには難解なところが一つもない。難解なテーマをここまで咀嚼して読者に語りかける批評の神様、ではなく父が子に、考え考え語りかける姿があるのです。